



いたびつ 板櫃 <校訓> 真理の探究 自主躍進



令和5年7月14日(金)発行
校長 栗原博巳
北九州市小倉北区白萩町8番1号
HP: www.kita9.ed.jp/itabitsu-j/

<学校教育目標>
自立・共生～自立心にあふれ、他を思いやる心をもった生徒の育成～
<目指す生徒像>
①「時を守り、場を清め、礼を正す」生徒(凡事徹底)
② 自ら考え、正しく判断し、進んで学習や諸活動に取り組む生徒(自立)
③ 思いやりの心を持ち、協力し合って集団生活の向上に努める生徒(共生)
④ 与えられた仕事に対し、役割を果たすことのできる生徒(責任)

着衣泳の大切さを学ぼう！

13日(木)1・3校時に1・2年生の水泳を見学しました。この日は、着衣泳の授業が行われました。授業では、大森先生、中野先生が話をしながら進めていきました。着衣泳は、海や川で溺れたときに、命を落とさないための訓練です。大森先生、中野先生は、靴やカバンが浮くことも丁寧に説明していました。さすが、1・2年生です。一生懸命に、真剣に着衣泳に取り組んでいました。服を着たまま、歩いたり、浮かんだり、泳いだり・・・結構大変だったと思いますが、万が一の時に役立つと思います。(もちろん、危険な遊びはNGです)



ビブリオバトル決勝が行われました！

ビブリオバトルは「人を通して本を知る。本を通して人を知る」がキャッチコピーです。

ビブリオバトルとは、正式には、自分が面白いと思った本を持ち寄って5分間で順番に紹介し、その発表についてそれぞれ 2、3 分間のディスカッションを参加者全員で行って、最後に一番読みたくなった本を投票で決めるというゲームです。

ビブリオバトルの面白さは、異なる背景をもった人間同士のコミュニケーションにあります。自分が面白いと思う本を紹介する訳ですから、その人の人柄についても知ることができますし、自分一人で探していたのではなかなか出会うことのできない、意外な本との出会いがあります。(参考：東京都立図書館 HP) 決勝大会に出場した15名は以下の人たちです。

学年組	氏名	本の題名	著者名	出版社
1-1	與田 夢乃	『変な家』	雨穴 Ukestu	飛鳥新社
1-2	田中 優菜	『LV999の村人』	星月 子猫	KADOKAWA
1-3	金川 舞海	『レモンの図書室』	ジョー・コットリル	小学館
1-4	佐藤 彩羽	『サイド・トラック』	ダイアナ・ハーモン・アシャー	評論社
1-5	上原 優季	『ふしぎ駄菓子屋 銭天堂』	廣島 玲子	偕成社
2-1	福田 涼子	『十角館の殺人』	綾辻 行人	講談社
2-2	岡村 啓叶	『WONDER(ワンダー)』	R・J・パラシオ	ほるぷ
2-3	岡崎 朔太郎	『変な絵』	雨穴 Ukestu	双葉社
2-4	溝端 遼馬	『すずめの戸締まり』	新海 誠	角川文庫
2-5	鬼崎 貴央	『かがみの孤城』	辻村 深月	ポプラ社
3-1	下林 由衣音	『青春ゲシュタルト崩壊』	丸井 とまと	スターツ出版
3-2	倉元 ののか	『母性』	湊 かなえ	新潮社
3-3	河野 竜弥	『赤ずきん、旅の途中で死体と出会う』	青柳 碧人	双葉文庫
3-4	梯 咲菜	『人間失格』	太宰 治	KADOKAWA
3-5	迫下 和奏	『かがみの孤城上・下』	辻村 深月	ポプラ社

先生も審査員として参加しました。全員素晴らしい発表、プレゼンテーションでした。「本のよさ」はもちろん、一生懸命さ、ひたむきさが十分伝わってきて、なんだか幸せな気持ちになりました。

今は、e-bookなどが主流になりつつありますが、「紙の本」もいいものです。今年は上の15名が代表になりましたが、一人一人が本のもつ魅力を再認識してくれたらと思います。先生が好きな作家は「永井路子」「星 新一」です。興味がある人は読んでみてください。

